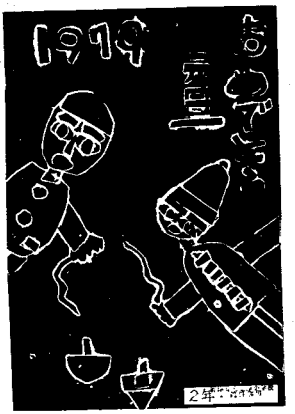
斎藤文美 さん（5年）




鶴田和男 くん（2年）

長谷川弘美 さん（5年）

# 息苦しい都会生活

## 目黒邦彦 さん（中沢町）

東京での四年間の大学生活の後、去年から地元で勤めている目黒邦彦さん（二十二歳、中沢町）にお話をうかがいました。

＊　＊

やっぱり都会へのあこがれをもっていたんで、ためらわず東京の大学へ進学しました。

最初は、見るもの聞くものみんな新鮮で、遊ぶ所もたくさんあって便利だし、ついには、どうして、あんないなかに住んでいたんだろうと思えてきたぐらいでした。

生活といえば、アパートで一人暮し。気楽でとても自由な生活でした。

でも、一年ぐらいしてわかったんですね。なんだか自分が都会のコンクリートジャングルの中で流されて、そして、肩ひじ張って生きているみたいな気がしたんです。

目黒邦彦さん

都会人は他人に無関心で連帯性がないんですよ。あれだけ多くの人がいても知っている人間は自分だけ。もう、息苦しくなりました。

環境といえば、過密なうえ、朝夕の殺人的なラッシュには、もう閉口しました。そして、フット思ったんです…若いときはいいかも知れないが一生住むところではないナア…と。

それで就職のときは、別にこっちに帰って来る必要はなかったんだけど、やっぱり新潟に決めました。

今思えば、東京での生活があったからこそ、この故郷の良さがわかったんだと思ってます。こちらは、交通の便は悪い、娯楽施設は少ない…。でも、緑があるし、東京では、暦でしか知ることのできなかった四季もはっきりあります。

のんびりした中に心のやすらぎがわいて来て自分本位の生活が送れるような気がします。やっぱり生まれた所が一番いいのでしょうかネエ。

今は、水原まで車で通っているんですが、季節とともに変わっていくまわりの景色がとても好きになりました。

## 若者にも魅力あるまちに

若者のUターン現象は、全国的な傾向です。これには、不況で都会に適当な職がないという原因もあるのでしょうが、大都市の環境悪化、若者たちの価値感の変化もおおいに影響しているのではないでしょうか。

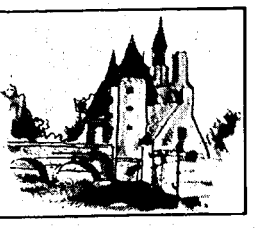
しかし、ただ単に自然環境がいいというだけでは、若者たちもUターンしてくるわけはありません。人間はカスミを食って生きるわけにはいきませんから、働く場がなければなりません。その点、当市は通勤距離圏内に、新潟市という日本海側最大の都市をひかえており、条件にも恵まれています。

三ページで紹介したような若者たちの強い地元志向、そしてUターンと、若者にとっても魅力ある〝ふるさとづくり〟が、ますます重要になってきます。

お買物、ご用命は市内で

あけまして
おめでとうございます

＊＊＊本年も新しいお菓子＊＊＊
―幸清水をよろしく―



Cake & Coffee
OSAKAYA
にいつ
オーサカヤ
本町2　TEl. 2－0112